



ホメオ通信 令和3年2月号



第3回ホメオパシーワールドコングレスで発表しました！！



先日1月20日に世界各国で行われたホメオパシーワールドコングレスにて20分にわたるケース発表をさせていただきました。

発表ではコロナ禍にオンラインで行い、また由井寅子先生が新たに開発された霊水のレメディーによって病気の根本原因とも言える魂レベルの「この世代的価値観」を解消して改善した2つのケースをご紹介します。

発表について由井名誉会長より「子供へも大人と同じように心をくばった相談会をしていること

レメディー選択の意図が綿密に考えられたものでとても良い結果を出している」と好評をいただきました。これも当センターのホメオパシー健康相談を続けてくださり、発表をご快諾くださったクライアント様たちのお陰です。ご協力ありがとうございました！

原罪と疥癬マヤズム

ホメオパシー独自の病気のエネルギーの概念にマヤズムというものがある。ハーネマンが記したマヤズムは疥癬マヤズム、淋病マヤズム、梅毒マヤズムの三つ。その中でも疥癬マヤズムは最大のもので、あらゆる病気はこの疥癬から生まれ、千の首を持つ竜のように変化していくと表現している。

この疥癬の特徴はエネルギーの低下や不足。生命力が下がることで、その他の病原体に感染する隙が出来るのだ。人間の体はその病気の症状を通してエネルギーの低下を克服しようとしているのだが一般的には症状は抑圧され病気は千の首を持つ竜のように多種多様に変化していく。今日、癌のような深刻な病気が増加している状況がそれだ。

疥癬マヤズムの起源は非常に古く、ルーツは定かではない。元はダニへの感染だったり、真菌などのカビだったり、らい病などとも言われているが、欧米にはキリスト教における原罪と重ねて説明するホメオパスがいる。

原罪はアダムとイブが蛇にそそのかされ、て「知恵の実」を食べたことで、彼らは神と同じく考える力を得たのと引き換えに天界から地上へと落とされ人類の歴史が始まったというもの。つまり疥癬マヤズムは人類の起源からあり、とても根深いものなのだ。

あまり知られていないが天界には実はもう一つ「生命の木」があり、もし彼らが「生命の実」を選んでいたなら神と同じ寿命を得て人間は数百年の寿命をもっていたと言われる。しかし彼らが選んだのは「知恵の実」、神のような寿命と引き換えに考える力を得たのだ。つまり考えることは人間の寿命を短くする行為とも考えられる。くよくよ思い悩むことが、ストレスになり、生命力を低下させることは誰でも容易に想像できるだろう。考えることは人間の特権でもあり、弱点でもある。できれば不必要に考え込まずに、エネルギーを行動に変えて楽しく長生きしたいものですね。

あやしさ全開で行け！！

～その3～ ホメオパシーを阻む力

ホメオパシーは常に2つの力によって世の中に広がることを阻まれている。一方は、物質が全く入っていない砂糖粒が効くわけがない、擬似科学であると非難する報道(日本など)。もう一方はホメオパシーは医学であり、レメディーは薬であるからおよそ病気に関することは全て医師がすべきであるという規制(フランスなど)。これら二つの意見は矛盾するもの感じられるだろう。しかし、ある業界の利権を守る目的と知れば筋が通る。

テレビや新聞、NEWSなどのスポンサーである業界がホメオパシーを広げさせないために定期的にバッシング報道を流してコントロールするのだ。何故なら病気が砂糖粒などで治ってしまったら、利益がなくなる業界がメディアを牛耳っているからだ。

一方で医者だけが使うべきと規制すれば、ホメオパシーの効果が一般に認められたとしても、彼らの利益は確保される。どちらに転んでも利益を独占するための彼らのリスクヘッジが上記のような矛盾する意見を存在させている。

僕が英国のホメオパシー学校で働いていた時、僕がホメオパスとして所属する日本ホメオパシー医学協会(JPHMA)はホメオパシー国際評議会(ICH)のメンバーだったので、会長の由井寅子先生が会議に出席されていた。英国スタッフである僕たちは英語で行われる会議の準備や報告等で同席させていただいていた。

会議の中で得た情報の一つに世界保健機構(WHO)がホメオパシーレメディーの規制を行う計画があるということがあった。特にノゾースと呼ばれる病気由来の原料のレメディーは、物質がないといえども、製造過程で何が起きるか分からないと衛生問題を理由に今後規制され入手できなくなる可能性があるというのだ。ノゾースは慢性病の治療に欠かせない重要なレメディーだ。それを知った僕が取った対策は規制されそうなノゾースを買い溜めておくことだった。規制される場合も、特にイギリスでは、すでに持っているものに関しては免除となることが多いからだ。

あれから6年程経つが、幸い今のところ懸念していた事態にはなっていない。しかしそのような事が起こり得ることも把握して、医師でないホメオパスたちが今後も同様に活動していける方法を考える必要があるだろう。

もしレメディーが薬に登録されてしまったら。ノゾースが使えなくなったら。僕たちホメオパスは両翼をもがれた鳥のようではないか!?何とかせねば!!

